

式辞

本日ここに、府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式を挙行するにあたり、原子爆弾の投下により犠牲となりました多くの御霊^{みたま}に対し、謹んで哀悼の誠を捧げるとともに、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

また、本日は、町内小中学校の児童、生徒の代表の皆さん、町議会議員、町内会役員の皆様をはじめ、多数の町民の方々にご参列をいただき、深く感謝申し上げます。

80年前の今日、8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾が広島に投下されました。一瞬のうちに街は壊滅し、多くの尊い生命が奪われ、人々の心に今なお癒えることのない傷を残しました。

今年は被爆80年の節目の年となります。

これを契機に、本町では、被爆の実相や平和の尊さを次世代に継承していくため、「府中町ゆかりの原爆資料展」や「平和標語の募集」、「追悼コンサート」などを多くの町民、関係者の皆様とともに取り組み、実施しているところです。多くの方々の参加をいただいています。

加えて、今年は、この町の原爆慰霊碑の建立から40年目を迎えます。

ここ榎川の河川敷では、市内で被爆して負傷し、手当の甲斐もなく亡くなられた多くの方が荼毘にふせられました。昭和60年、被爆40年目の年に、被爆者や町内会を中心とした町民有志の方々が、町民から浄財を集め、原爆死没者の霊を慰め、核兵器の廃絶を訴えるために、この地にこの慰霊碑を建立されました。

原爆慰霊碑の碑文も町民から募集され、次のよう刻まれています。「核に灼^やかれし、御霊安かれ、永遠に、ともに築かん 世界の平和」。慰霊し次世代に繋ぐ言葉であります。この碑文の書は、本日ご出席いただいている林幽桂先生により揮毫されたものです。現在、役場で開催している「府中町ゆかりの原爆資料展」においても、林先生にご協力いただき、書を展示しております。この場をお借りして感謝申し上げます。

現在、被爆者や戦争経験者が少なくなる中で、私たちは、すべての被爆者の方々や将来の世代に対する責務として、「核兵器廃絶と恒久平和」の実現に向けて、被爆・戦争体験や思いを次世代に伝えつなげるとともに、平和の尊さを発信する取組みに、より一層力を尽くさなければなりません。

本日は児童、生徒の皆さんにもご参列いただき、このあと「平和へのメッセージ」を発表していただきますが、原爆によって広島市とともに世界で最初に凄惨な被害を被った府中町の地で育つ皆さん方が、我々の平和への願いをしっかりと受け継ぎ、今後とも世界に向けて力強く発信してくださることを期待しております。

結びに、原爆、戦争により亡くなられたすべての方々に、今一度、哀悼の意を捧げますとともに、被爆者並びにご遺族の皆様、式典へのご協力をいただいた関係団体の皆様、そして「平和」への思いを未来へ、受け継いでいただく小中学生の皆様方の、ご多幸とご活躍を心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

令和七年八月六日

府中町長 寺尾 光司